

学校評価の結果と考察

1 教育目標・学校運営

「学校運営に教職員の意見が反映されている」という項目に、「十分満足できる」と回答した職員は、9月には昨年度末とほぼ同じ79%であったが、2月67%と下がっている。これは、ウィズコロナ2年目になり感染症対策をしながら学校行事に取り組んできたが、JAETの全国大会をはじめとする校外に向けた発表の機会が急に増えるなど、学校として取り組まなければならないことが多く、それに対して職員の意見を十分に反映できなかったことがあるのではないかと考えられる。

来年度以降は、コロナが5類に変わることもあり、学校行事等が今年度と形が変わっていくと思われる。そこで、職員や生徒の意見を反映させながら、教育的価値や生徒の安全、職員の働き方などを考慮して、取り組めることを考えていきたい。

2 授業

職員の自己評価において、「教材や指導方法を工夫・改善するなど、生徒の主体性を育む授業になるよう努力している」という項目に「十分満足できる」と回答したものが、9月の58%から2月の90%に大きく数値が上がっている。全国発表もあり、職員が前向きに努力したことがうかがえる。また、「授業において、友達と考えを広げたり深めたりする場面がありますか」と生徒に聞いたところ、1年生では97.3%、2年生では96.5%、3年生では96.9%が「十分ある」「おおむねある」と回答しており、どの学年も非常に高い数値である。生徒、教員の双方の結果から、新しい学力観に沿った授業改善が進んでいることがうかがわれる。

キャリア教育については、「生徒自身が将来の生き方を考える手助けとなっていますか」という問いに職員の自己評価は「十分満足できる」が53%から67%に上がっており、生徒においても「なっている」「おおむねなっている」と答えた割合が、1年生では95.9%、2年生で94.6%、3年生では89.1%と高い。学年に添ったキャリア教育が進められている結果が現れていると考える。

今年度の反省から来年度へつながるように、利用できるものと変えていった方が良いものを判断し、「生きた知識」を育むような授業改善に取り組んでいく。

3 生徒指導・教育相談

2月の職員のアンケート結果では「十分満足できる」との回答が、「いじめや問題行動の対応には、組織的に取り組んでいる」において95%、「生徒指導において、家庭との連携がとれている」において90%である。学年主任を中心に学年の職員が情報を共有して、問題に取り組んでいることがうかがえる。また、週に1回の生徒指導部会を大切にして、情報を共有し、学校の問題として捉えているため、他学年の状況もおおむね把握している職員が多いことも影響していると考えられる。

生徒のアンケートにおいて、「困ったときに相談できる先生はいますか」の問いに「いる」と答えた生徒が、1年生で83.8%。2年生で89.3%。3年生で79.7%の値である。しかし、1番少ない3年生においても「先生と相談する機会は十分ありますか」の問いに82.8%の生徒が「十分ある」「だいたい相談できている」と答えており、8割の生徒は、悩みを教師に相談できていることがわかる。

来年度も年4回の学校生活アンケートと学期に1回の教育相談は継続するとともに、よりいっそう生徒理解に努め、こどものサインを見逃さないように、教職員間の連携を図っていききたい。

4 家庭・地域との連携

「個に応じた対応で、不登校の未然防止に努めるとともに、保護者と連絡を取り合い対応できている」の問いに「十分である」「おおむねできている」と答えた職員が95%に対して、「学校は、お子様のことを相談しやすいですか」という問いに保護者は「相談しやすい」「おおむね相談しやすい」と回答した保護者は、合わせても72.4%である。今年度も感染症対策として、保護者の校内へ入ることを制限してきたため、学校での様子が伝わりにくくなっているからではないかと考える。「学校は、通信やHP等で学校の様子をお知らせできていますか」という問いに、「できている」「おおむねできている」と回答した保護者は、81.0%、地域の方の回答は94.4%であった。引き続きHPを利用して、行事や学校の様子を伝えていくとともに、来年度からは保護者に学校へ足を運んでもらう機会を増やしていきたい。

また、「学校は地域と連携した取組を積極的に取り入れ行っている」という問いに、「十分満足できる」と回答した職員が9月で79%2月は67%と数値は少し下がっているが、昨年度末は50%であったことを考えると、今年度は感染症対策をしながらも、地域の行事を開催することができたことは大きかったと思う。これからも、地域連携室や社会福祉協議会の方たちと協力し、中学生が活躍できる機会を模索していきたい。加えて、地域との連携に関する情報を教職員にも発信し、より一層の理解と関心を深めていきたい。